

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190401182		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	ハートの家八番館		
所在地	札幌市西区平和2条6丁目1-5		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190401182-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0190401182-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年11月1日に現在のグループホームの隣の敷地に1ユニット(9名)が開設し入居者様は18名になり、全員が女性のご入居者様です。新ユニットには介護経験のある職員や未経験の職員が入職しています。既存のユニットを参考にしながら、業務を組み立て、ケアを実践しています。新型コロナウイルスが5類となり、それに合わせご家族様の面会制限の解除、合同での行事も開催できるようになり、楽しみも増えてきています。八番館での最大のアピールポイントは職員が元気であることと、ご入居者様のケアに皆、一生懸命なところ。明るく、楽しく過ごして頂くように職員全員、頑張っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和5年10月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から程近い住宅地にある2ユニットの事業所である。建物は開設4年が経過する2階建て1ユニットと昨年開設した平屋建て1ユニットが繋がる構造で、其々懐かしい佇まいであったり、建具に色彩を意識するなど特有の住環境を有している。地域での利用希望者が多い状況を受けユニット増に至っており市民福祉に尽力している。感染症流行期と事業開始が重なり地域とのつきあも難しい情勢ではあったものの、町内会加入や天候のためにやむ無く中止となったが、今年、事業所夏祭りの開催を企画し、よさこい演舞や縁日など利用者、家族、地域の方々と集い楽しむ活動の展開や、今後は保育園や商店、近隣施設との相互交流の実現に向けている。管理者は職員の日頃の努力や具体的な実績を把握し、向上心をもって働ける環境を整え、職員同士も良好な関係のもとに利用者支援に臨んでおり、元気で活気のある介護が窺える。また、利用者の話を良く聴く事を大切にしよう心がけ、本人の意思形成とその表明、その意思が尊重され実現できるよう丁寧に繋ぎ、家族の協力も得て安心できる生活を支えている。ホーム便り、個人別のハート便で本人の生活風景や近況を報告し、家族アンケートでの評価も高い。利用者の状態像から職員の支援が適切か否かを振り返るなど、利用者を中心に据えた視点での介護支援の姿勢に優れている。良い人間関係なくして、良いケアはできないの理念の奥行きは広く深い、理念の実践に向けその涵養が伝わる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様と日々、喜びあえる暮らしを創れるように実践している。	重要事項説明書の運営方針に地域密着型サービスの社会的役割を定め、当方針の体現に向け「良い人間関係なくして、良いケアはできない」の基本理念を標榜している。利用者の状態像から支援の実際を振り返り、全体で気づきを共有し合うなど、理念の涵養に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域と繋がれるようにしている。また、近所の保育園とも交流を図れるようにしていきたい。	町内会や地域の情報は、回覧板や地域包括支援センターから得ており、近隣の障害者施設からは毎年、菓子のお裾分けがある。夏祭りは天候によりやむ無く中止となったが、地域や家族の方々が集い楽しむ企画がなされていた。	暮らしを事業所内だけで完結するものとせず、普段の暮らしの中でも地域社会と繋がりが成り立つよう、その基盤作りや支援方法を模索している。事業所資源・機能還元も行いつつ、地域の方々と支え合うような双方向関係の発展についても期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けた活動ができていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月より2か月に1回、運営推進会議を開催している。ホームの取り組み、ご家族様からのご意見を頂き、サービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員、家族の出席を得て、参集にて開催している。事業所からの報告とともに、毎回、中心課題を設け、これらに係る資料も添え、協議している。会議案内、議事録を家族、関係者に送付している。	運営推進会議の意義や役割の再確認を含め、メンバー拡充へと動き出すところであるので「認知症グループホームにおける運営推進会議ガイドブック」も参考にし、会議推進に期待したい。また、報告事項としてヒヤリハット・事故報告・職員の入退職について充足を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の介護保険課事業指導係と事故報告をするなど、連携を図るようにしている。	運営法人と事業所は、市の指導や助言を下にリスクマネジメントチェックリストにて毎月自己評価に取り組む仕組みを構築し継続的实施により質の確保に努めている。事故報告書や入居状況等調査票、諸書の調書、アンケート類を行政担当者へ提出し協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内において、身体拘束委員会を設置し、3か月に1度の委員会を開催し、身体拘束について理解を含めている。また、法人内研修(zoom研修)に参加し勉強の機会を得ている。	身体拘束廃止に関する指針を定め、身体拘束委員会を定期に開催している。年2回これらに係る内部研修を実施し、禁止の対象となる11項目・スピーチロックについて学んでいる。月ミーティングや内部研修の機会を利用者の状態像をから不適切ケアについて検証している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	対人チェック表を活用しながら、不適切ケアや虐待防止に繋げている。また、法人内研修(zoom研修)に参加し勉強の機会を得ている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用していないが、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な場合には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、疑問なことはないか確認をおこない、理解、納得を図った上で契約の締結をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にてご家族様に意見や要望をお聞きし、出された希望や意見を運営に反映させるようにしている。	利用者からの家族と一緒に食事をしたい、帰宅したいなど個別の意見には、その都度家族と相談しつつ対応している。家族からは運営推進会議で意見を得たり、支援への個別の意見や要望では、介護計画に反映させるなどしている。	家族が意見を述べやすい環境に配慮しているものの、家族により知りたい事、気になる事に違いがある事から、個々の意向を確認し、要望に叶った情報提供にも期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて職員の意見や提案を聞き施設内が良くなるように反映させている。	年2回、法人の評価制度活用機会に管理者が職員と面談し、意見や要望を聞く機会やその都度、話しをする事がある。月ミーティングは日頃の職員からの提案事項を全員で協議し合う場として機能しており、職員とともに一緒に話し合い、調整する環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の評価制度(コンピテンシー)を活用し、各職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内において新人、中間職など力量に応じたりモート等で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホームの管理者同士では空室状況などの情報を共有している。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人とお会いして、現在の身体面や心身の状況、不安に感じていることや要望などをお伺いし、不安を軽減できるようにしている。また、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、グループホームの概要や料金を説明している。また、入居時にご用意して頂く物をお伝えし、初めて家族をグループホームへ入居させることの戸惑いを軽減した上で、不安なことや要望をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活環境、ご本人の意向、ご家族の要望などご本人に見合ったサービスの提供を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせた出来る事、やってみたいことなどを把握し他者との交流を図れるような場を提供できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を解除し、いつでも面会ができるようになってきている。また、月1回、本人の生活風景や近況報告のためにも、個別でハート便を作成してご家族様に郵送している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中や写真で思い出話を聞いたりご家族にお願いし馴染みのある家具などを持ってきてもらい以前の家を忘れないようにしている。	面会制限が解除となり、家族や知人、友人の面会が再開されている。家族と一緒に過ごす時間が増え、居室で一緒に昼食を取る方、散歩を楽しむ方、一時帰宅する利用者もいる。家族との電話や手紙、年賀状を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に自立し他者との関係が良い状態に職員も間に入り取り持つような支援に努めている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居、退去をされた後も、ご様子を伺うために、電話等で心配ごと等の相談を受ける様支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも入居者様と会話などを通し意向や希望を聞き出来る限りの支援を行っている。困難な場合は今までの生活などから何が必要なのか考え支援している。	利用者の話をしっかり聞く事を基本に、都度対応しつつ、何でも話してもらえるようにして、意向や希望を確認している。「ここでの生活でしたい事ありますか?」など、生活の意向を本人に合う聴き方で直接尋ねたり、家族から情報を得るなどし把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの話や以前にいた施設からの情報などを聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を確認し職員皆で共有し入居者様の生活を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度の個々のモニタリングを職員全体で行い話し合い適切な介護、必要な事柄などを活かしご家族にも報告し介護計画の実施に努めている。	アセスメントはセンター方式を活用し、評価は様々な角度で分析ができるよう職員全員でモニタリングに取り組み、利用開始以前の介護支援専門員に様子を問い合わせる場合もあり、本人の安心できる暮らしの計画書の策定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録をもとにケアがなされているか、適切であるか職員との連携、共有、話し合いを得て介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者様の記録や行動、支援に対し職員全体で話し合いその方に必要なサービスの提供に柔軟な姿勢で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ていますが、活用には至っていません。今後どのように活用し支援できるのが課題に挙がっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療には気になる体調の変化などを報告し希望に合わせた診療を行っている。	訪問診療のある協力医療機関の医師をかかりつけ医とし、家族等の同意を得て受診支援を行っている。その他の必要な診療科目は事業所に対応し、これまでの馴染みの医療機関に継続している利用者もいる。週1度、医療連携で看護師が訪問している。	

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記の内容で体調の変化などで受診をしなければならぬ時はご家族様に状況を説明し訪問看護師にも報告し納得の上で受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院と介護職員ご家族様との連携をとり必要な情報は共有し相談にものり良い関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応の指針を説明し、急変時や終末期における介護および医療に関する意思確認をおこない、看取り期においては、医師からご家族様への説明及び三者面談を実施している。	「重度化対応に関する指針」「急変時や終末期における介護及び医療等に関する確認書」を利用契約時に説明し同意を得ている。医師の判断に基づき関係者間で話し合いを重ね、改めて確認書にて合意形成し対応している。これまで1名の看取り支援に尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時においてAEDの使い方の勉強会を行い各自初期対応、緊急時には対応できるよう実践力は身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制、マニュアルを整備し緊急時に備えている。	令和5年3月に火災・夜間想定避難訓練を実施し、10月に火災・夜間想定避難訓練を予定している。利用者情報持ち出しカード、災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画の策定を行っている。	事業所地域で想定される自然災害を想定した訓練の実施と、近隣施設や住民との協力体制の整備、指定収容避難場所への移動検証など、運営推進会議においても話し合い更なる災害対策の強化に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はしっかりとされている。個々の人格を尊重し言葉かけには気を付けている。	利用者の状態像から職員の支援が適切か否かを振り返るなど、利用者を中心に据えた視点での介護支援を行っており、人格を尊重できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような環境づくりを心掛け、希望に沿った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の活動の沿った支援をし希望を聞き入れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな洋服を着て頂いたり2~3か月に一度、訪問美容を利用し、ヘアカットをしている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やかたづけなど、可能なご利用者様には職員と一緒に準備している。「お手伝い」がケアプランに入っている方なども一緒にやって頂いている。	外部業者よりメニューに沿った食事が搬入され、主食と汁物を手作りしている。季節の行事食が提供されたり、希望に合わせ寿司などの出前をとることもある。食後に食器拭きを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、食事量を記入し、1日のトータルを把握している。食事の時にメニューなど話し、会話の中で食べて頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にそれぞれ口腔ケアをされている。介助が必要な方、ご自身では最後までできない方は職員がお手伝いしています。歯科医は定期的に来て頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決め、都度お声かけしたり、時間誘導したりなどして自身での排泄を促している。	適宜トイレへの誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。排便記録をつけ便秘にならないよう注意している。トイレで排泄が困難な場合は、居室で衛生材料の交換や清拭を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や牛乳を増やしたり、主治医に相談し服薬などもして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今日は「ニューヨーク」ですよーとお誘いしたり、入浴中も会話を楽しんで頂いている。体調に応じ入浴日を変更したり、シャワー浴に変更している。	一人あたり週2回は入浴できるよう、言葉かけの工夫やタイミングを変えたりしている。湯上りに冷たい飲み物を用意しており、それが楽しみに入浴される利用者もいる。浴槽に入ることが困難な場合はシャワーチェアを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調によってお昼寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便に関しの下剤などは状況に応じ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶碗を拭いて頂いたり洗濯物をたたんで頂いたりしている。昭和の曲が好きなご入居者様が多いので曲を聴いて、歌って気分転換などをされている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの外出制限も解除され、希望があれば外出・外泊が可能になった。お散歩などの外出支援は職員の人数不足のため、できていない。	家族の面会時に協力を得て、外出や外食をする利用者もいる。日常的な外出はできていないが、今後、回覧板回しやゴミ出しなどの機会を作っていきたいという意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の自己管理が困難なご入居者様が多いため、職員が管理している。金銭の用途についてはご家族へ毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようになっている。手紙を自ら書けるご入居者様はいないが、ご家族より季節ごとやお誕生日などに手紙が届いているご入居者様もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、消毒や季節に応じて温度管理、換気をおこない、居間や廊下に季節の花、写真や手作りの作品を飾り、居心地のよい空間作りに努めている。	リビングには大きなソファがあり、ゆったりと過ごせるようになっている。季節に合わせ装飾がされ、観葉植物などもあり季節感が感じられ家庭的な雰囲気となるよう工夫している。空調が整備され夏も快適に過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置している。ご自身の座る場所と認識されており、過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご家族と相談して出来るだけ多くの馴染みの物を持ち込んで頂けるようにしている。ご本人にとって安心できる居室作りに取り組んでいる。	居室にはクローゼットが備え付けられている。鏡台やテーブルなどを持ち込んで利用している利用者もいる。ベッドは家族や本人の希望で介護用ベッドのレンタルや購入をする事もできる。写真や趣味の作品を壁に飾り温もりが感じられる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」、居室など解りやすく表示するようにし、自分の行く場所が理解できるように工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190401182		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	ハートの家八番館		
所在地	札幌市西区平和2条6丁目1-5		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和4年11月1日に現在のグループホームの隣の敷地に1ユニット(9名)が開設し入居者様は18名になり、全員が女性のご入居者様です。新ユニットには介護経験のある職員や未経験の職員が入職しています。既存のユニットを参考にしながら、業務を組み立て、ケアを実践しています。新型コロナウイルスが5類となり、それに合わせご家族様の面会制限の解除、合同での行事も開催できるようになり、楽しみも増えてきています。八番館での最大のアピールポイントは職員が元気であることと、ご入居者様のケアに皆、一生懸命なところです。明るく、楽しく過ごして頂くように職員全員、頑張っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgsyoCd=0190401182-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgsyoCd=0190401182-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様と職員が一体となり楽しみ、喜び、生活感がある毎日を作るよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過であったため地域との関りを持たずにいたが夏祭りを企画し、地域の方とのつながりを持つよう思っていたが雨天で中止となりこれから先、何か出来ればと模索中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けた活動ができていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご家族様からの意見なども聞き取り施設での運営に活かすことが出来ている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の介護保険課事業指導係とコロナウイルス感染予防対策、他感染症等について連携を図るようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内において、身体拘束委員会を設置し、3か月に1度の委員会を開催し、身体拘束についての理解を深めている。また、法人内研修(ZOOM研修)に参加し勉強の機会を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	対人チェック表を活用しながら、不適切ケアや虐待防止に繋げている。また、法人内研修(ZOOM研修)に参加し勉強の機会を得ている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、日常生活支援事業を利用している。また、必要になった時にいつでも活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては疑問にしっかりとわかりやすく説明し納得のいくよう理解をして頂いてから締結している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議が5月から開催されるようになったため、意見要望は吸い上げ運営に反映させることが出来ている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにおいて職員の意見や提案を聞き施設内が良くなるように反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人独自の評価制度(コンピテンシー)を活用し、各職員が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内において新人、中間職など力量に応じたりモート等で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のグループホームの管理者同士では空室状況などの情報を共有している。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずご本人とお会いして、現在の身体面や心身の状況、不安に感じていることや要望などをお伺いし、不安を軽減できるようにしている。また、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時には、グループホームの概要や料金を説明している。また、入居時にご用意して頂く物をお伝えし、初めて家族をグループホームへ入居させることの戸惑いを軽減した上で、不安なことや要望をお聴きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活環境、ご本人の意向、ご家族の要望などご本人に見合ったサービスの提供を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせた出来る事、やってみたいことなどを把握し他者との交流を図れるような場を提供できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限を解除し、いつでも面会ができるようになってきている。また、月1回、本人の生活風景や近況報告のためにも、個別でハート便を作成してご家族様に郵送している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中や写真で思い出話を聞いたりご家族にお願いし馴染みのある家具などを持ってきてもらい以前の家を忘れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に自立し他者との関係が良い状態に職員も間に入り取り持つような支援に努めている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所や転居になった場合でもいつでも連絡がとれるようにご家族様にはお伝えし相談、支援が出来るよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	いつでも入居者様と会話などを通し意向や希望を聞き出来る限りの支援を行っている。困難な場合は今までの生活などから何が必要なのか考え支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの話や以前にいた施設からの情報などを聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を確認し職員皆で共有し入居者様の生活を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度の個々のモニタリングを職員全体で行い話し合い適切な介護、必要な事柄などを活かしご家族にも報告し介護計画の実施に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録をもとにケアがなされているか、適切であるか職員との連携、共有、話し合いを得て介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に入居者様の記録や行動、支援に対し職員全体で話し合いその方に必要なサービスの提供に柔軟な姿勢で取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は出来ていますが、活用には至っていません。今後どのように活用し支援できるのが課題に挙がっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療には気になる体調の変化などを報告し希望に合わせた診療を行っている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記の内容で体調の変化などで受診をしなければならない時はご家族様に状況を説明し訪問看護師にも報告し納得の上で受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には病院と介護職員ご家族様との連携をとり必要な情報は共有し相談にものり良い関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応の指針を説明し、急変時や終末期における介護および医療に関する意思確認をおこなっている。看取り期においては、医師からご家族様への説明及び三者面談を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時においてAEDの使い方の勉強会を行い各自初期対応、緊急時には対応できるよう実践力は身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の連絡体制、マニュアルを整備し緊急時に備えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はしっかりとされている。個々の人格を尊重し言葉かけには気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような環境づくりを心掛け、希望に沿った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の活動の沿った支援をし希望を聞き入れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな洋服を着て頂いたり2~3か月に一度、訪問美容を利用し、ヘアカットをしている。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューをボードに書いて頂いたり、食器を拭いて頂いたり個々の出来る事に目を向け支援をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎回チェックし必要に応じた栄養バランスになるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い自力でできない方には介助に入りケアを行っている。訪問歯科にも来ていただき定期的に口腔内の観察をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを記録から導き出し定時のお声掛けや誘導によりトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い便秘傾向のある方には医師に報告し便秘薬で改善したり、ご家族からのヨーグルトの差し入れによって改善されたり毎日の体操で予防をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、事前にお声掛けをし入浴されるかどうか確認している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に関しては体力がない方には午前午後休息の時間をとっていただいたり、希望があればいつでも、休めるよう体調を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調管理に努め各自服薬されている薬の効果、副作用について理解し体調の変化の確認を怠らないように気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、レクリエーションの参加を促し楽しまれたり洗濯物をたたむなどの役割を提供し日々の日常に変化がある生活になるよう支援している。		

グループホームハートの家八番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外出が出来なかったが5月から外出可能になりご家族の協力のもと散歩に出たり自宅に帰られたり少しずつ希望に沿った支援が出来るようになってきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での現金管理が出来ない方が多く、職員で管理しており必要なものを買う時はご家族に報告をし支出用途管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から連絡がしたいと報告された場合には電話番号を確認し連絡している。手紙は書ける方がほほいないため行ってない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感のある空間づくりに努め、壁には季節がわかるような作り物を貼ったり居心地の良い環境で生活出来るよう気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自座るソファがあり、ゆっくりとテレビを見られたりお茶を飲まれたり入居者様同士でのコミュニケーションがとれるような空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室になるよう使い慣れたタンスやテーブルなどを持ち込んで良い空間づくりにご家族の協力のもと行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行する場合でも段差のない廊下やトイレまでの距離やトイレとわかる張り紙や自立を促すよう工夫している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホームハートの家八番館

作成日：令和 5年 11月 8日

市町村受理日：令和 5年 11月 13日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域社会との繋がりができていない。	地域社会との繋がりをつくる。	調査員の方からもアドバイスを頂き、町内会の回覧板をご入居者様と一緒に次の方に届ける、または、近所のお店にご入居者様と一緒に買物に出かける等、実践していく。	1か月
2	4	運営推進会議を活かした地域との取り組みができていない。	運営推進会議に地域の方にも参加して頂き、グループホームを存在を更に認識して頂く。	ホームの前にある障害者施設、または、近隣にあるお店の方にも出席を呼びかけていく。内容については、調査員の方からもアドバイスを頂いた、事故やヒヤリハット、職員の入退職の報告も加える。	4ヵ月
3	10	ご家族様が知りたい、気になる情報の把握ができていないため、知りたい、気になる情報提供ができていない。	ご家族様の意向を確認し、要望に叶った情報提供を実践する。	運営推進会議や面会に来られた時に、意向を確認し、情報提供をしていく。	3か月
4	35	自然災害を想定した訓練の実施、近隣施設や住民との協力体制が確立できていない。	自然災害を想定した訓練の実施、近隣施設や住民との協力体制の整備の実施、避難場所への移動検証を実施する。	定期的に訓練を実施し、運営推進会議に出席を呼びかけ、会議において協力体制の話し合いをする。	4ヵ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。